

## 恵那市 国保上矢作病院



院長診察風景

### 地域包括ケア病床を導入し、地域の皆さんに更なる貢献を

#### 県境を越えたへき地医療の役割も担う病院

恵那市上矢作町は、愛知県三河湾に注ぐ清流矢作川の最上流に位置し、山々に囲まれた山紫水明な地域です。市は県の東南に位置し、長野県と愛知県の県境にあります。市の最東南に位置している当院は、県境を越えたへき地医療の役割も担っています。スタッフは常勤医師3人（県派遣医師含む）、大学からの非常勤医師5人、救急当直医師22人、看護師32人、非常勤看護師8人、看護補助者5人、非常勤看護補助者8人、薬剤師3人、放射線技師3人、理学療法士4人、臨床検査技師3人、管理栄養士1人、



#### 住民の願いに寄り添った病院を目指して

当院は、昭和52年に国保診療所から50床の国保上矢作病院として開院しました。地域に暮らす方々の安心や安全に対する信頼と期待が寄せられた、旧恵那郡恵南地域で唯一の病院として、40年が経過しました。少子高齢化により、現在、恵那市の人口は5万1169人、高齢化率は33・16%であり、上矢作町の高齢化率は45・24%と市内13地域で2番目に高くなっています。こうした社会的背景の影響もあり、病院の患者数も減少傾向にあります。また、上矢作を含めた近隣地域は広域

者様や家族様のニーズに合った病院に柔軟に変革していききたいと思えます。

#### 地域包括ケア病棟で在宅復帰をサポート

市町村合併により、恵那市では、市立恵那病院と国保上矢作病院の2病院体制となりました。平成28年に市立恵那病院は新築移転され、急性期病院として市の医療の中心を担っており、それに伴い当院は、急性期から在宅復帰を中心とした病院

へと変革しつつあります。急性期病院では、早期に退院が促されるため、在宅復帰の足場として、地域包括ケア病棟を稼働し、多くの急性期病院から患者様を受け入れ、在宅復帰のサポートをしています。住み慣れた場所でも長く過ごすことを目標に、様々な医療福祉施設と連携し、患者様一人ひとりに合った医療を提供していきます。また、困ったときはすぐに病院受診できるように24時間体制の医療を継続し、安心して生活できる環境を作っていきます。

的に点在住居化しており、独居世帯も多く、地域住民の生活や健康をいかにして守るべきかが、へき地医療拠点病院としての当院の重要な役割となっております。こうした中で、「病院が今後いかにあるべきか」を検討し、施設改修や組織調整、リハビリ専任職員や医療ソーシャルワーカーの増員を行い、昨年11月から、地域包括ケア病床を稼働させました。また、在宅生活の不安が少なくなるようリハビリを積極的にを行い、ソーシャルワーカーを増員することで、地域連携を強固にし、安心して入退院の相談や調整ができる体制としました。今後は、その取り組み内容を地域の方々にご理解いただき、できるだけ多くの方にご利用いただける病院にしていきたいと考えております。



病院全景



訪問看護

また、公共交通機関の少ない当地区では、病院開設当時より病院から各地区へ患者様送迎用のバスを出していましたが、最近では患者様の高齢化も進み、バス停まで歩けない人も増えてきました。そのため、マイクバスを小型化し、家の近くまで送迎できるように改善してまいります。それでも通院が困難な方のためには往診、訪問看護を強化し、安心して在宅生活を送れるようにしております。住み慣れた場所でも長く過ごしたいのが、誰もの願いです。当院はこうした願いに寄り添い、サポートできる病院を目指して、患

#### 院長のこぼれ話

院長 西脇巨記



##### 専門分野

消化器外科

##### 着任当時の思い出

恵南豪雨災害のすぐ後の赴任で、病院の前の上村川に何台もの重機が並び、岩を砕く音が響いていました。あれから十数年が過ぎ、病院の前も鮎の住む川となりました。

##### 休日の過ごし方、趣味

下手くそながら、鮎の友釣りを楽しみました。また最近、仕事の後に畑仕事をするのも上矢作で暮らす楽しみの一つとなっています。